

NO.	内容	静岡市の回答	
1	<p>庵原高校出身なので、蒲原は第二の地元のような感覚があります。今でも周辺を通るたびに懐かしい気持ちになります。また音楽イベントやマルシェの際に訪れたり、今でもたくさん楽しませていただいています。母校が閉校したことはとても悲しかったですが、その分、地元の方だけでなく、多くの方が集う場所になってもらえたら嬉しいです。日本平夜市のような夜のマルシェや地元の野菜が安く買える等ができればもっと足を運ぶ回数が増えるかと思えます。またドッグランができたり、スイーツやドリンクの充実したカフェスペースが増えてくれたら嬉しいです。</p>	実施に向けて参考にする	<p>本基本計画では、道の駅を地域振興の拠点として位置付けており、イベントやマルシェ、飲食・物販などを通じて、地域住民や来訪者が交流できる場となるよう検討しています。具体的な実施内容については、今後、運営事業者との協議を通じて検討させていただきます。</p>
2	<p>3年弱行ったトライアルサウンディングについて、その過程で得た課題や知見等と、新たな道の駅検討とのつながりがもう少し見えると良いと感じました。キラーコンテンツの確立は新たな施設整備においては当然のことです。また、トライアルサウンディングからでも導き出せることではないでしょうか。今回のトライアルサウンディングは、比較的長期間行っているかと思えます。その期間の試行をもう少し具体的に精査したほうが、これまでの試行とこれからの流れのつながりがよりわかりやすく、より実務に裏付けられた計画になると感じます。精査した結果として、有効な事業者募集条件や特徴ある導入機能が示されていることで、初めてトライアルサウンディングとしての意味が出る気もしますが、いかがでしょうか。</p>	その他 ご意見への回答	<p>トライアルサウンディングについては、施設の可能性や課題を把握することを目的として実施したものであり、その成果を踏まえ、本基本計画において必要な機能や方向性を整理しています。今後は、得られた知見を活かし、事業者選定や具体的な施設内容の検討を進めてまいります。</p>
3	<p>東名高速道路のサービスエリアなどにあるような立派なトイレ設置をしていただければ、それだけでも、あの場所には綺麗なトイレがあるから、立ち寄って休憩していることと思います。事故などの渋滞時にも駐車場と広いトイレがあれば、大変便利な場所になると思います。ぜひ、よろしく願いいたします。</p>	実施に向けて参考にする	<p>本基本計画では、道路利用者が安全かつ快適に利用できるよう、十分な規模と機能を備えたトイレの整備を検討しています。災害時においても活用できる施設となるよう配慮してまいります。</p>
4	<p>「トライアルパーク蒲原が道の駅になることを応援しています。子どもからお年寄りまで、地域住民が日常的に集える憩いの場としてさらに充実することを期待しています。また、広大な敷地を活かし、いざという時の『防災拠点』としての機能も備えた、地域に安心をもたらす施設になってほしいと願っています。」</p>	実施に向けて参考にする	<p>道の駅は、地域住民の憩いの場であるとともに、防災拠点としての役割も担う施設として計画しています。平常時・災害時の双方において、地域に安心をもたらす施設となるよう整備を進めてまいります。</p>
5	<p>蒲原生まれとして、今回の計画を大変うれしく思っています。海も近く、富士山も望めるこの素晴らしい場所に「道の駅」ができることは、地域の魅力向上や観光振興の面から見ても大きな意義があると感じています。</p> <p>また、清水区周辺には種類が豊富で規模の大きい野菜直売所が少ないため、地元農産物を幅広く取り扱う大型直売所が併設されると大変うれしいです。規模としては、袋井市の「とれたて倶楽部」のような充実した施設を理想としています。</p> <p>地域のにぎわいづくりの拠点となる道の駅の完成を、心より楽しみにしております。</p>	実施に向けて参考にする	<p>本計画では、地場産品を活用した物販機能を導入し、地域経済の活性化を図ることとしています。具体的な店舗構成や規模については、今後、運営事業者との協議を通じて検討させていただきます。</p>
6	<p>魅力ある地域づくりの一環として、ドッグランの継続設置を要望いたします</p> <p>これまで、当施設にはドッグランがあったことで、市外からも多くの愛犬連れの方が訪れていました。近隣には小型犬・中大型犬が利用できる施設が不足しており、利用者にとって貴重な交流の場となっています。</p> <p>また、イベント開催時には非常に高い集客力を発揮し、地域の賑わい創出に大きく寄与していると実感しております。愛犬家が気軽に立ち寄れる環境を整備することは、滞在時間の延長や周辺の経済活性化にもつながると考えます。(日陰をつくる、風に強い常設テント等があるとなお良い)</p> <p>ぜひ、新たな整備計画においてもドッグランの設置をご検討いただけますよう、お願い申し上げます。</p>	実施に向けて参考にする	<p>ドッグランについては、トライアルパーク蒲原において一定の利用実績があることを認識しており、基本計画にもドッグランについて記載いたしました。今後の施設設計や運営内容の検討において、屋外空間の活用方法の一つとして参考にしております。</p>
7	<p>計画書を見せていただきました。下り車線から入れるのでしょうか？上り車線からは入れないのですか？混雑時女性のトイレは行列ができることがあり観光バスの出発時間ギリギリの事があります。トイレの数も沢山あると嬉しいです。富士山が見え、海にも川にも近く、自転車でも富士川の河川敷をサイクリングしたり、縄文好きの私は埋蔵文化センターが側にありとてもうれしいです。縄文遺跡を青森や長野山梨に見に行っていましたがかんんなに近くで縄文遺跡を見られるなんて色々な楽しみ方が出来そうで楽しみです。早く出来ることを楽しみにしています</p>	その他 ご意見への回答	<p>下り線からは直接入ることが出来る構造としており、上り線からのアクセスは蒲原東ICを降りてのアクセスを想定しています。道の駅へのアクセスやトイレの規模については、道路管理者等と協議を行いながら、安全性や利便性に配慮した計画とします。詳細については、今後の設計段階で検討させていただきます。</p>
8	<p>国1バイパスを走る車の駐車場の機能と共に 地元、付近の市街からも、憩いや、時間を楽しめる場所で、カフェ、例えばスタバを誘致できないか？若者がよく利用していますので。</p>	実施に向けて参考にする	<p>本計画では、地域住民にも日常的に利用していただける施設を目指しており、カフェ等の飲食機能についても導入を検討しています。具体的な内容については、今後検討させていただきます。</p>

NO.	内容	静岡市の回答	
9	<p>【提言】道の駅・次世代差別化戦略 ペット用「パラダイススペース」構築による集客最大化と地域創生の実現</p> <p>1. はじめに:道の駅の「実体」と「パラダイムシフト」 現在、全国に1,200拠点以上存在する道の駅は、過当競争の時代にあります。これまでの「トイレ休憩」や「地産地消の直売所」という機能だけでは、もはやデスティネーション(目的地)としての優位性を保てません。特筆すべきは、日本の15歳未満の子供の数(約1,400万人)に対し、犬猫の飼育数(約1,600万頭)が大きく上回っているという現実です。ペットはもはや「愛玩動物」ではなく、可処分所得の高い層における「最優先すべき家族(伴侶)」へと昇華しました。この歴史的転換点を捉え、経営戦略を根本から再定義することが求められています。</p> <p>2. 現状分析:形骸化した「ドッグラン」という欺瞞 多くの公共施設で見られる既存のペットスペースは、利用者の真のニーズから著しく乖離しており、形式的な設置に留まっています。 ・「生存環境」の欠如:夏場のアスファルトは60°Cを超え、肉球の火傷や熱中症を誘発します。冬場の吹き晒しのテラスは、家族である飼い主に「一刻も早く立ち去りたい」という心理的プレッシャーを与えます。 ・負の連鎖の露呈:「不快な環境 = 短時間滞在 = 低単価消費」。この構造こそが、現在の道の駅におけるペット関連施策の限界であり、経営資源の無駄遣いとなっているのです。</p> <p>3. 戦略的具休案:オールシーズン・ホスピタリティの構築 単なるドッグランの延長ではない、人間同様のホスピタリティを提供する「パラダイススペース」を具体化します。</p> <p>① 物理的障壁の解消:全天候型「クリスタル・バビリオン」の設置 単なる屋根ではなく、断熱性に優れたガラス張り、あるいは高度な換気システムを備えたインナーテラスを構築します。 ・具体例:夏は冷房とドライミスト、冬は床暖房を備えた「ペット同伴ラウンジ」。ここでは、飼い主が地元のブランド牛のステーキや特産スイーツを、ペットを足元で休ませながら楽しめます。 ・法的・衛生的配慮:食品衛生法を遵守しつつ、物理的なゾーニング(自動ドアや空気清浄壁、専用排気システム)を徹底することで、一般客との摩擦を最小化し、全員が快適な「共生空間」を創出します。</p> <p>② ソフト面の差別化:「ペットコンシェルジュ」と「スキル・マトリックス」 ハードウェア以上に重要なのが、提供されるサービスの「質」と「信頼(ガバナンス)」の可視化です。 ・具体例:専門資格(愛玩動物飼養管理士、ドッグリハビリトレーナー等)を持つスタッフを「ペットコンシェルジュ」として配置。急な体調不良への対応、近隣の動物病院とのリアルタイムな連携、さらには個々の犬種に合わせた「地産地消の無添加ペット用ジビエ料理(菜膳視点)」の提供など、ペットの健康にコミットする姿勢を可視化します。 ・信頼の数値化:清掃頻度や除菌状況、スタッフの保有スキルを一覧化した「スキル・マトリックス」を掲示。これは、先生が論文で説く「情報の非対称性の解消」そのものです。</p> <p>③ デジタル・トランスフォーメーション(DX)による「安心の提供」 ・具体例:スペース内の温湿度データを公式サイトやSNSでライブ配信。「現在のテラス内温度は24°C、混雑度30%」という情報をリアルタイムで発信することで、飼い主は安心してその道の駅を目的地として設定できます。この「事前情報の透明性」こそが、顧客満足度の源泉となります。</p> <p>4. 期待される経済的インパクトと地域創生 A. 滞在時間の劇的延長(スロー・ツーリズムの実現) 快適な環境は、滞在時間を平均20分から90分以上へと引き上げます。滞在時間の延長は、飲食、お土産、さらには地域の体験型プログラムへの参加率に正比例し、客単価の大幅な向上(LTV:顧客生涯価値の最大化)をもたらします。 B. SNSによる「情熱的拡散力」 ペットオーナーのコミュニティは極めて強固で、情報の信頼性を重視します。「あそこの道の駅は、私たちの家族(ペット)を人間と同じように尊重してくれた」という感動は、SNSを通じて爆発的に拡散されます。これは数千万円の広告費に匹敵するブランディング効果を生み、遠方からの新規顧客を呼び込む「磁石」となります。 C. 未利用資源の活用(地域循環型経済の構築) 規格外の農産物や、地域で課題となっている野生鳥獣(鹿・猪)を、高品質な「ペット用ジャーキー」や「フレッシュフード」として加工販売します。 ・具体例:鹿肉は高タンパク・低脂質で犬の健康に非常に適しています。これを「道の駅限定の高級食材」としてブランド化することで、地域猟師の収益向上と害獣対策、さらには道の駅の収益増という「三方よし」のサステナビリティ(持続可能性)を実現します。</p> <p>5. 結語:ホスピタリティの「真の営為」へ 道の駅の役割とは、地域の「玄関口」であると同時に、訪れるすべての家族の「幸福」を担保する場所に他なりません。法学の世界において「少数者の権利」が守られるべきであると同様、現代における「家族の形」の多様性に対し、道の駅が最適解を提供することは、社会的な重要課題です。ペットを「パラダイス」で迎え入れるという決断は、単なる集客手法を超え、「生命あるものすべてに対する慈しみ」を体現する、道の駅としての最高度のホスピタリティの営為です。この「情報の透明性」に裏打ちされた「快適空間の提供」こそが、地方創生を牽引する唯一無二の鍵となることを確信し、ここに強く提言いたします。</p>	<p>実施に向けて参考にする</p>	<p>ペットを家族の一員として考える方が増えている社会状況を踏まえ、ペット連れの来訪者にも配慮した施設づくりについて重要な視点の一つと認識しており、基本計画にもドッグランについて記載いたしました。</p> <p>全天候型の利用空間やサービス面の充実など、滞在性や満足度向上につながる取組については、施設の安全性、衛生管理、事業性、運営体制等を総合的に考慮する必要のあることから、いただいたご意見を今後の施設計画や運営内容の検討において参考とさせていただきます。</p> <p>また、来訪者が安心して快適に滞在できる環境づくりや、デジタル技術を活用した情報発信の充実について重要な視点であると認識しており、温湿度や混雑状況などの分かりやすい情報提供や、SNS等を活用した発信については、来訪前の安心感や満足度向上につながる取組として、今後の運営内容の検討において参考とさせていただきます。また、地場産品や未利用資源を活用した商品展開による地域経済への波及効果についても、関係機関との連携や事業性等を踏まえながら、検討してまいります。</p>

NO.	内容	静岡市の回答	
10	<p>【提言】静岡市・東の聖地：世界唯一の「天然表富士・天空露天風呂」による圧倒的差別化と国際デスティネーション化</p> <p>1. はじめに：記号から「真実の富士」へ —— 静岡市東玄関の使命日本の銭湯文化の象徴である富士山の壁画は、庶民の憧れの投影でした。しかし、これからの時代に求められるのは代替品ではなく「本物」との邂逅です。静岡市、特にその東の玄関口に位置する道の駅は、山梨県側（裏富士）からは決して拝むことのできない、「裾野まで完璧に広がる表富士の稜線」という神聖な資産を有しています。本提言は、この圧倒的な地の利を活かし、天然の富士山を借景とした「天空露天風呂」を構築することで、静岡市を世界中の旅人が目指す「世界一の聖地」へと昇華させるものです。</p> <p>2. 現状分析：山梨県「裏富士」との対比と静岡市の優位性富士山観光において山梨県は先行していますが、温泉施設に関しては致命的な「不完全さ」を抱えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山梨（裏富士）の限界：山梨側からの富士山は、手前の山々に裾野を遮られることが多く、また、急速な観光開発による電線や建物の映り込みが、視覚的なガバナンス（純粋な景観管理）を損なっています。 ・静岡（表富士）の絶対的優位性：静岡市東部から望む富士山は、海から山頂まで一気に立ち上がるダイナミズムを有しています。しかし、現状はこの「世界遺産級の眺望」を、裸身で、お湯に浸かりながら、心ゆくまで享受できる公共施設が存在しません。この**「情報の透明性（偽りのない絶景）」**の欠如こそが、最大の機会損失です。 <p>3. 戦略的具體案：「天空露天風呂」構築の5つの核心</p> <p>① 視覚的ガバナンスの極致：「インフィニティ・表富士・パノラマ」</p> <p>湯船の縁と富士山の裾野を視覚的に接続し、温泉が富士山の大地に直接繋がっているかのような錯覚を創出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例：前面を遮る柵を排除し、水鏡効果を最大限に高めた「ミラー・エッジ・プール」構造を採用。山梨県側の施設が「窓越し」であるのに対し、こちらは「空気そのものを共有する」開放感を提供します。 ・夜の営為（トワイライト・ガバナンス）：月光に照らされた「銀富士」を鑑賞するため、施設周辺の光害を徹底的に排除。暗闇の中に浮かび上がる巨大な影としての富士山と対話する、精神的価値の高い空間を設計します。 <p>② 究極の「共生」：ペット・パラダイスとの戦略的隣接</p> <p>同時に提言しました「ペット・パラダイス」との完全融合を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例：飼い主が天空露天風呂で富士山と一体化している間、愛犬は隣接する冷暖房完備の「クリスタル・パビリオン」で、富士山の伏流水を飲みながら快適に待機。家族全員が「置き去り」にされない、サステナブルな幸福空間を構築します。 <p>③ 五感のサステナビリティ：富士の恩恵の「見える化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例（飲泉と食）：駿河湾の海洋深層水と富士山の伏流水をブレンドした「究極の整い水」を提供。さらに、露天風呂に隣接するダイニングでは、富士の裾野で育った朝霧高原の乳製品や静岡の茶、駿河湾の幸を「富士山を眺めながら」食す体験をパッケージ化します。 <p>④ デジタル技術による「絶景保証」と情報公開</p> <p>「情報の透明性」を観光に応用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例：AI予測による「富士山遭遇確率」を、道の駅のデジタルサイネージやSNSで24時間配信。「今、山梨側は雲の中ですが、静岡側は快晴です」といった比較情報を公開することで、集客の最適化（スマート・ツーリズム）を実現します。 <p>⑤ スキル・マトリックスの導入：温泉ソムリエと地域ガイドの常駐</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例：単なる受付係ではなく、富士山の地質学や歴史に精通した「富士山コンシェルジュ」を配置。その専門性をマトリックス化して掲示し、来訪者に「知的な満足」という付加価値を提供します。 <p>4. 経済的インパクトと地域創生の論理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム・ブランディング：「世界で唯一、表富士を裾野まで仰ぐ露天風呂」という称号は、価格競争を無効化します。1回数千円の入浴料であっても、世界中から予約が殺到する「超高付加価値施設」となります。 ・滞在型観光への転換：露天風呂を核に、周辺の「道の駅」全体が「滞在型リゾート」へと進化。これにより、静岡市東部エリアの客単価は劇的に向上し、若者の雇用創出と地域経済のサステナビリティが確立されます。 <p>5. 結語：静岡市「東の聖地」から世界へ贈る、真の営為</p> <p>道の駅に露天風呂を作ることは、単なるハコモノ行政ではありません。それは、静岡市が誇る最高至極の資産「表富士」を、世界中の人々の心に届けるための「おもてなしの真の営為」です。山梨県側には真似のできない、裾野まで続く圧倒的な稜線をバックに、お湯に浸かる。このシンプルかつ究極の体験を提供することは、静岡市のプライドであり、次世代に向けた最大の地域貢献です。</p> <p>この情熱的な挑戦が、静岡市を「通過点」から「世界が羨む終着点」へと変えることを確信し、ここに強く、情熱を持って提言いたします。</p>	実施に向けて参考にする	<p>整備予定地周辺から望む富士山の雄大な景観を、貴重な地域資源であると認識しています。富士山の眺望を活かした施設機能や、来訪者の滞在価値を高める取組につきましては、魅力向上につながる重要な視点である一方、敷地条件、景観・環境への配慮、安全性、事業性、運営体制などを総合的に考慮する必要があります。いただいたご提言については、今後の施設計画や運営内容を検討する際の参考とさせていただきます。地域の特性を活かした魅力ある道の駅づくりに努めてまいります。</p>

NO.	内容	静岡市の回答	
11	<p>【提言書】富士を額装する「展望凱旋門」と「天空露天風呂」 静岡市蒲原・国際デスティネーション化戦略 序文：静岡市の矜持を「門」に刻む 現在、日本の富士山観光は大きな転換点を迎えています。山梨県側の「河口湖」周辺がオーバーツーリズムと景観遮蔽問題に揺れる中、我々静岡市民が示すべき回答は「規制」ではなく、圧倒的な「解放」と「美の提示」でなければなりません。 本提言は、広重が描いた宿場町・蒲原の地に、富士山の「完全なる稜線」を巨大なフレームで切り取る「展望凱旋門（Arc de Triomphe de Fuji）」を建立し、その最上階に世界唯一の「天空露天風呂」を配することで、蒲原を「通過点」から「世界の終着点」へと変貌させる国家級プロジェクトの全容です。</p> <hr/> <p>1. 建築的論拠：なぜ「凱旋門」なのか ―― 視覚的勝利の構造 既存の道の駅（富士川楽座等）が「中から見る」施設であるのに対し、本構想は施設そのものが「富士と対話する彫刻」となります。 ・「黄金比」による「富士の額装（フレーミング）」凱旋門のアーチ高と幅を、特定の展望地点から富士山の山体（剣ヶ峰から裾野まで）が完璧に収まる「黄金比」で設計します。来訪者は門に近づくにつれ、巨大な富士山が建築の枠内に「収穫」される劇的な視覚体験を味わいます。これはパリの凱旋門がシャンゼリゼ通りの終止符であるように、日本の東海道における「富士への礼拝門」として機能します。 ・「クリスタル・アーキテクチャ」の採用 構造体には高透過ガラスと鏡面仕上げのチタン素材を融合。昼間は周囲の空と海を反射して建物が風景に溶け込み、夜間は内側からの柔らかなライティングにより、富士山のシルエットを背景に「光の門」が浮き上がります。</p> <hr/> <p>2. 究極の体験価値：天空インフィニティ露天風呂の衝撃 凱旋門の最上部、地上約50メートル（予定）に位置する温浴施設は、世界中のラグジュアリーホテルを凌駕するスペックを備えます。 ・「海拔ゼロから三七七六」を繋ぐ水面 浴槽の縁を極限まで低くしたインフィニティ設計により、入浴者の視界からは手前の建物や道路が消失します。眼前に広がるのは「駿河湾の蒼」と「富士の白」のみ。お湯がそのまま富士の裾野へと流れ込んでいるかのような「空間的融合」を実現します。 ・「裏富士」に対する圧倒的優位性 山梨側からの眺望は、手前の山々に裾野が隠される「欠けた富士」です。しかし、蒲原から望む富士は、海拔0mから頂上まで一気に立ち上がる、地球上でも稀有な「完全体」です。この「真実の姿」を全裸で、かつ天空から拝む体験は、他では絶対に不可能な、静岡市だけの特権的資源です。</p> <hr/> <p>3. 戦略的具休案：日本一を実現する5つの多層的装置 ① プロムナード・オブ・フジ（精神の変容） 駐車場から凱旋門へと続く100メートルのアプローチを「巡礼路」と位置づけます。 ・「具休例」：歌川広重の『東海道五十三次・蒲原夜之雪』のデジタルインスタレーションを配置。白黒の静寂な世界から、凱旋門をくぐった瞬間にカラーの巨大な本物の富士が現れるという「時空を超えた演出」で、観光客の感情を最高潮に高めます。 ② ペット・ロイヤル・スパ（共生の極致） 「愛犬を車に待たせない道の駅」を徹底します。 ・「具休例」：凱旋門の基部（1階）に、富士山伏流水100%のドッグ専用温泉と、プロのトリマーによる「絶景ケア」エリアを設置。飼い主が天空で富士を愛でている間、愛犬もまた地上で最高級の癒やしを得る。この「全家族幸福モデル」により、滞在時間を劇的に延ばします。 ③ ガストロノミー・オブ・スカイ（食の正対） ・「具休例」：全席が富士山に正対する「シアター型レストラン」。蒲原名産の「桜えび」を、富士山の形を模したクリスタルプレートで供し、富士の湧水で淹れた黄金色の静岡茶とともに提供します。五感すべてを「富士」で満たす、究極のブランディングです。</p> <hr/> <p>4. 経済・社会的インパクト：通過する1千万を「留める1百万」へ 国道1号バイパスを通過する膨大な車両を「ただ通り過ぎる客」から「高単価な滞在客」へと転換させます。 ・「高付加価値・高単価戦略」入浴料を一般的なスーパー銭湯の数倍（例：3,000円～5,000円）に設定しても、「世界唯一の凱旋門温泉」という物語性があれば、インバウンド層や富裕層は惜しみなく支払います。この収益を地域のインフラ整備や教育に還元する、自立型経済モデルを構築します。 ・「4時間のグローバル発信」凱旋門の頂上に高精度4Kカメラを設置し、世界へライブ配信。「今、蒲原の凱旋門から見える富士」をSNSで拡散。雲が晴れた瞬間に「今すぐ来い」というシグナルを送るスマート・ツーリズムを実践します。</p> <hr/> <p>5. 結語：静岡市のプライドを形にする 「天然表富士・天空露天風呂」と「展望凱旋門」の融合。それは、単なるハコモノ行政ではありません。山梨県側の「裏富士」観光に対し、静岡市が「表の王道」であることを世界に宣言する、令和の国威発揚とも言えるプロジェクトです。 「富士山を見るなら、静岡の凱旋門へ」。 この言葉が世界の旅行者の合言葉になった時、蒲原は日本の、いや世界の「聖地」となります。提唱するこの熱き構想こそが、静岡市の未来を切り拓く唯一無二の鍵であると確信いたします。</p>	<p>実施に向けて 参考にする</p>	<p>海から山頂まで見渡せる富士山の眺望をはじめ、蒲原地区が有する景観資源を重要な魅力と捉え、来訪者が滞在し地域を回遊できる施設づくりを目指しています。ご提言のような眺望を活かしたランドマーク性のある施設や温浴機能等につきましては、魅力向上につながる視点である一方、敷地条件、景観・環境への配慮、安全性、防災面、事業性、運営体制、関係機関との調整などを総合的に考慮する必要があります。いただいたご提言は、今後の施設計画や運営内容、情報発信のあり方を検討する際の参考とし、地域の特性を活かした魅力ある道の駅づくりに努めてまいります。</p>

NO.	内容	静岡市の回答
12	<p>【提言】静岡市・東の聖地：世界唯一の「展望凱旋門」による圧倒的差別化と国際DESTINATION化戦略</p> <p>1. はじめに：記号から「真理の富士」へ —— 蒲原の使命 日本の象徴である富士山。しかし、世界中の旅人がこれまで見てきたのは、山梨県側の「山々に裾野を遮られた不完全な富士」か、あるいは銭湯の壁画という「記号」に過ぎませんでした。 静岡市の東の最前線、蒲原。ここには海拔0mの駿河湾から山頂まで一気に立ち上がる「完璧な稜線(表富士)」という、神聖なまでの天然資産が眠っています。本提言は、この地に巨大な「凱旋門」を築くことで、富士山を単なる背景から、人類が拝むべき「生きた芸術」へと昇華させ、静岡市を「世界の聖地」へと変貌させるものです。</p> <p>2. 現状分析：山梨「裏富士」を凌駕する静岡の「正統性」 観光開発において先行する山梨県ですが、そこには致命的な「視覚的ガバナンス」の欠如があります。 ・山梨(裏富士)の限界：山梨側からの富士山は、手前の山塊に足元を隠され、さらに過密な観光地化による電線、看板、建物が景観を汚染しています。近年の「黒い幕」問題は、その管理の限界を露呈しました。 ・静岡(表富士)の絶対的優位：蒲原から望む富士は、一切の遮蔽物がない「情報の透明性」を体現しています。この「偽りのない絶景」を建築というフレームで縁取り、「日本一の門」として定義することが、山梨に対する最大の差別化戦略となります。</p> <p>3. 戦略的具體案：「展望凱旋門」5つの核心的構造</p> <p>① 視覚的支配：世界最大級の「ピクチャー・フレーム」 凱旋門そのものを、巨大な「額縁」として設計します。 ・黄金比によるフレーミング：門のアーチをくぐる際、歩行者の視線の先に富士山の山頂から裾野までがピタリと黄金比で収まるよう、ミリ単位で角度を計算。来訪者は門をくぐった瞬間、視界のすべてが富士山に支配される「視覚的衝撃」を体験します。 ・クリスタル・アーチ：門の素材には、空の色を反射する特殊な強化ガラスと、静岡の産業を象徴する高品位なアルミニウムを採用。天候によって姿を変える富士山と一体化する「透過する建築」を目指します。</p> <p>② 天空の回廊：「富士山コンシェルジュ」による知的満足 門の内部は、地上から最上階へと続くらせん状の展示空間(スロープ)となります。 ・具体例：単なる通路ではなく、浮世絵師・歌川広重が描いた『蒲原 夜之雪』から現代のドローン映像まで、富士山の視覚的歴史を展示。 ・図キル・マトリックスの導入：門の各所に、地質学・歴史・気象に精通した「富士山コンシェルジュ」を配置。「なぜここから見る富士が世界一なのか」を論理的かつ情熱的に語り、知的な付加価値を提供します。</p> <p>③ 五感のサステナビリティ：富士の恩恵を「味わう」門 凱旋門の柱の部分には、富士山の恵みを凝縮したプレミアム・ラウンジを設置します。 ・具体例：門の地下深くから汲み上げた伏流水を「門の雫」として提供。さらに朝霧高原の乳製品や駿河湾の桜えびを用いた「門限定のフィンガーフード」を展開。富士を「デジタル技術による「絶景保証」テクノロジー」 ・具体例：門の頂点に設置した4K高感度カメラから24時間ライブ配信。「今、山梨側は雲で隠れていますが、静岡の凱旋門からは完璧な裾野が見えています」という比較情報をAIが多言語で発信し、旅人を蒲原へ導きます。</p> <p>④ 夜の宮為(トワイライト・ガバナンス) ・具体例：富士山のシルエットを邪魔しないよう、上空への光害を徹底排除。門の足元から漏れる柔らかな光が、暗闇に浮かぶ「黒富士」を神々しく演出します。</p> <p>4. 核心部：展望凱旋門・最上階「天空の絶景テラス：アルカディア・フジ」</p> <p>① 空間デザイン：情報の透明性を極限まで追求 ・「インフィニティ・エア・デッキ」：超低反射の高透過ガラスを垂直に立ち上げ、手すりとしての「壁」を消去。足元から富士の裾野、駿河湾の蒼へと視線が吸い込まれる浮遊感を創出します。 ・「水鏡(ミズカガミ)・プラットフォーム」：テラス中央に深さ10mmの水盤を設置。地上数十メートルの空中で「逆さ表富士」と対峙できる物理法則を超えた視覚体験を提供します。 ・「環境音のライブ・ミキシング」：指向性マイクで捉えた「波音」と「山麓の風」を音響設計に最適化して流し、五感すべてを没入させます。</p> <p>② 限定メニュー案：富士の恩恵を「結晶」させたガストロノミー ・「ノー・ピーク・ソルベ」：標高3,776mにちなんだ、朝霧高原ミルクソルベ。来訪者自ら伏流水の天然氷を削り、パタフライピーのシロップで「赤富士」や「銀富士」を皿の上に再現します。 ・富士・エッセンス・コールドブリュー：伏流水を使用し、最高級「本山茶」を24時間かけて氷出し。ワイングラスで供されるその一杯は、静岡の真髄を伝えます。 ・桜えびのクリスタル・ケーキサレ：蒲原漁港直送の桜えびを、岩肌をイメージした全粒粉生地に宝石のように散りばめ、限定クラフトビールと共に提供します。</p> <p>③ スキル・マトリックス：おもてなしの専門性 ・「光の読み手」：美しい稜線が見える瞬間を予見し耳打ちします。 ・「歴史の語り部」：広重の視点と現在の地形を重ね合わせ、静岡の富士が「信仰と芸術の対象」であることを伝えます。</p> <p>5. デジタル・バイラル・マーケティング：世界を揺さぶる「SNSダイナミズム」</p> <p>① 視覚的勝利の仕掛け ・「センター・オブ・ザ・ワールド」：富士山が完璧な左右対称に収まる位置に真鍮の「軸線タイル」を埋め込み、誰でもプロ級の1枚を撮れる「#富士山凱旋門」の聖地化を狙います。 ・「公式ドローン・セルフィー」：門の定点カメラを遠隔操作し、個人では撮れない「はるか上空からの自分と富士山」の動画をダウンロード可能にします。</p> <p>② AR歴史オーバーレイ ・「時空を超えたシャッター」：アプリをかざすと画面上の富士に『蒲原 夜之雪』が重なるAR機能を搭載。現在と江戸時代を「スプリット画面」で投稿させ、ナラティブを付加します。</p>	<p>海から山頂まで見渡せる富士山の眺望をはじめ、蒲原地区が有する景観資源を重要な魅力と捉え、来訪者が滞在し地域を回遊できる施設づくりを目指しています。ご提言のような眺望を活かしたランドマーク性のある施設や温浴機能、デジタル技術を活用した情報発信等につきましては、魅力向上につながる視点である一方、敷地条件、景観・環境への配慮、安全性、防災面、事業性、運営体制、関係機関との調整などを総合的に考慮する必要があります。いただいたご提言は、今後の施設計画や運営内容、情報発信のあり方を検討する際の参考とさせていただきます。地域の特性を活かした魅力ある道の駅づくりに努めてまいります。</p> <p>実施に向けて参考にする</p>

NO.	内容	静岡市の回答	
12	<p>③ 称号とデジタル・コレクション 「登頂証明NFT」: その日の富士の表情を刻印した限定デジタルアートを配布。「遭遇率100%」などのデータが刻まれた画像で「行った自慢」を価値化します。</p> <p>6. 年間フォトジェニック・カレンダー: 365日の演出案 ・春(サクラ・ゲート): 門のフレーム内に「富士桜のピンク、雪の白、空の蒼」を三層構造で完成させます。 ・夏(ダイヤモンド・ゲート): 門の真上に夕陽が重なる瞬間を予測配信。テラスでは「富士山型かき氷」を提供します。 ・秋(ムーンライト・グラフィティ): アーチ内に「満月」と「富士山」が収まる時間を算出。黄金の稲穂のデコレーションと共に江戸の情緒を再定義します。 ・冬(クリスタル・富士): 裾野までクリアな真白き「正統富士」をバックに、氷の装飾を施した門で「天空の茶会」を開催します。</p> <p>7. 経済的インパクトと結語 このプロジェクトは、単なるハコモロ行政ではありません。山梨県側の「裏富士」観光が「隠す・遮る」というネガティブ・ガバナンスに走る中、静岡市が「最高に美しく見せる」というポジティブ・ガバナンスで世界に反旗を翻す、令和の国威発揚です。 「山梨は富士山を『利用』しているが、静岡は富士山と『共生』している」。 この圧倒的な「情報の透明性」と「建築の力」により、蒲原は通過点から世界が嫉妬する「終着点」へと昇華します。この情熱的な挑戦こそが、静岡市民のシビックプライドを再燃させ、日本一、いや世界一の道の駅を実現する唯一の道であると確信し、本提言を締めくくります。</p> <p>【追加提言】展望凱旋門プロジェクト 技術的リアリズムと経済的インパクトの相関論証 1. 建設予定地の地質を考慮した構造案 —— 「強靱なる門」の設計 蒲原地区は駿河湾に面し、富士山の火山噴出物や富士川の堆積物、そしてプレート境界に近い地質学的特性を有しています。この地に巨大構造物を建てることは、単なる建築ではなく「地球の鼓動」への挑戦です。 ① 免震・制振のハイブリッド構造: クリスタル・コア・システム ・地質的課題: 蒲原は沖積層(砂礫や粘土)が厚く、地震時の液状化リスクや長周期地震動の影響を考慮する必要があります。 ・具体的構造案: 凱旋門の二本の「脚」にあたる基礎部分に、「深礎杭(しんそぐい)」を支持地盤まで打ち込みます。さらに、門の最上部(展望テラス階)に、富士山の揺れと逆方向に動く「同調質量ダンパー(TMD)」を設置。このダンパー自体を、前述の「水鏡(ミズカガミ)」の貯水槽として機能させることで、意匠と防災を高度に融合させます。 ② 塩害対策と新素材: アルミ・セラミック・コンポジット ・具体的対策: 海から至近距離にあるため、通常の鉄骨では腐食が避けられません。そこで、静岡の地場産業であるアルミニウムに特殊なセラミックコーティングを施した「超耐食性アルミ合金」を外装に使用します。 ・視覚的効果: この素材は、朝日の「赤富士」や夕暮れの黄金色を鈍く反射し、建物自体が環境に合わせて呼吸しているかのような質感を永続的に保ちます。 ③ 風響(ふうきょう)対策: 空力設計のアーチ ・具体的設計: 駿河湾からの強烈な海風(吹き下ろし)をアーチ内に通す際、風切り音(カルマン渦)が発生します。これを防ぐため、アーチの内壁には航空機の翼のような流体解析に基づいた微細なスリット(凹凸)を施します。これにより、風は音を立てる代わりに、テラスへと続く「天然のベンチレーション(換気)」へと変換されます。</p> <p>2. 経済波及効果の試算 —— 「通過」から「滞在・消費」への転換 「日本一の道の駅」としての経済効果を、単なる入場料収入ではなく、グローバルな「デスティネーション(目的地)価値」から算出します。 ① インバウンド富裕層の消費予測: 単価の劇的上昇 ・現状: 現在の道の駅利用者の平均客単価は1,500円~3,000円程度(食事・土産)。 ・提言後の予測: 「展望凱旋門・天空露天風呂」を核とすることで、ターゲットを富裕層(LVMHなどのラグジュアリー層)へシフトさせます。 ○ 展望・入浴セット券: 8,000円(記念NFT・伏流水ドリンク付) ○ アストロノミー・ディナー: 35,000円(静岡産食材フルコース) ・具体的効果: 1日1,000人のVIP来場を見込むだけで、施設単体で年間約150億円の直接収入を見込みます。 ② 周辺産業への「放射状」波及効果 ・宿泊施設のアップグレード: 凱旋門の誕生により、周辺の民家や休止施設が「富士山眺望ブティックホテル」へとリノベーションされます。これにより、蒲原地区の宿泊キャパシティが10倍に拡大し、一晩で数千万単位の宿泊消費が発生します。 ・農業・漁業のブランド化: 凱旋門で提供される「桜えび」や「静岡茶」が「凱旋門認定ブランド」として世界へ輸出されるきっかけとなり、地場産品の出荷単価が平均30%向上します。 ③ 経済的論理: 山梨に対する「機会損失」の奪還 ・論証: 現在、成田・羽田から京都・大阪へ向かうゴールデンルートにおいて、観光客の多くは山梨(河口湖)に寄り道し、静岡は新幹線で「通過」されるだけです。 ・戦略: 「山梨にはない『海から立ち上がる富士』を『凱旋門』で見る」という強固な理由(Unique Selling Proposition)を提示することで、年間推定200万人のゴールデンルート客のうち、30%(約60万人)を静岡に引き留めます。これにより、静岡市に年間約600億円規模の新たな経済圏を創出します。</p> <p>3. 結論: 持続可能な「プライド」の投資 この事業の真の価値は、GDP(国内総生産)の向上だけでなく、GNH(国民幸福度、あるいは市民の郷土愛)の向上にあります。 地質学的に強靱で、経済的に自立し、デジタルで世界と繋がる「展望凱旋門」。これは蒲原という土地が持つ「宿命的な美」を、現代のテクノロジーと経済学で武装させ、未来へ引き継ぐための投資です。</p>		

NO.	内容	静岡市の回答	
12	<p>【別添資料】道の駅「蒲原」展望凱旋門プロジェクト:技術・経済白書</p> <p>1. 建築・地質技術白書:千年を刻む「強靱なる聖域」の構築 蒲原の地質的制約を「世界最先端の建築技術」の展示場へと転換します。</p> <p>① 地質リスクの技術的克服 ・深層支持基盤への定着(ディーブ・ファンデーション):蒲原地区の沖積層を貫き、確実な支持地盤に直径3m超の「深礎杭」を打設します。これは、地震時の液状化を完全に封じ込めるだけでなく、凱旋門という巨大な重量体を支える不動の礎となります。 ・巨クティブ・マス・ダンパー(AMD)の搭載:門の頂部(天空テラス階)に、建物自体の揺れを打ち消す重りを設置。この重りには、前述の「インフィニティ水盤」の貯水を利用します。「美(水鏡)」と「防災(制振)」が完全に一致する、世界でも類を見ない合理的な設計です。</p> <p>② 海岸線における「不変の美」の維持 ・超耐食性「静岡アルミ」ハイブリッド外装:静岡市の地場産業であるアルミニウムに、ナノレベルのセラミックコーティングを施した新素材を採用。塩害による腐食を100年単位で防ぎ、常に鏡面のような輝きを維持します。これにより、メンテナンスコストを従来比で40%削減します。</p> <p>2. 経済波及効果白書:静岡市を「通過」から「滞在」へ変える力学 本プロジェクトは、単なる公共投資ではなく、莫大な外貨(インバウンド)を獲得する「輸出産業」として機能します。</p> <p>① インバウンド富裕層(VHNWI)の戦略的獲得 山梨県側(河口湖周辺)が安価な大衆観光のオーバーツーリズムに苦しむ中、蒲原は「高付加価値・低密度」の戦略をとります。 ・想定客単価のパラダイムシフト: ○展望・入浴・プレミアムラウンジ利用:12,000円 ○因空テラスでの「ガストロノミー・ペアリング」:45,000円 試算:年間来場者150万人のうち、上位10%がこのプレミアムプランを利用するだけで、付帯消費を含め年間約250億円の直接消費を創出します。</p> <p>② 「富士山・東玄関」の経済圏拡大 ・周辺地価と民間の連動投資:凱旋門の建設を契機に、蒲原・由比地区の遊休不動産を「富士山ビュー・ヴィラ」へと転換。これにより、固定資産税収入の増大と、年間約**500名の新規雇用(観光・飲食・サービス業)**を創出します。 ・広域周遊のハブ機能:「凱旋門」を起点とし、三保松原、日本平、久能山東照宮を結ぶ「静岡市・黄金ルート」を再構築。これにより、市内平均宿泊日数を現在の1.1日から2.3日へ倍増させます。</p> <p>3. 国際競争力論証:山梨「裏富士」に対する「情報の透明性」の勝利 山梨県側が抱える「景観の過密」と「撮影制限」という弱点を、蒲原の「開放」と「技術」で突き崩します。 ・デジタル・ガバナンスによる比較優位:凱旋門頂上から「山梨側の雲の状況」と「蒲原からの快晴の表富士」をライブ比較配信。「今、確実に富士山が見えるのは静岡である」という情報を世界に24時間デリバリーし、観光客の目的地を物理的に方向転換(ダイバート)させます。 ・「正統性」のブランド構築:海拔0mからの全景を「凱旋門という権威」で切り取る行為は、富士山観光における「正統な礼拝所」としての地位を確立します。</p> <p>4. 結語:静岡市民の「シビックプライド」の再点火 本提言の核心は、経済合理性以上に「静岡市民が富士山に対して持つべき誇り」を物理的に形にすることにあります。「富士山を見るなら、静岡の凱旋門へ」。この一文が世界の観光ガイドの冒頭に記される未来は、蒲原の地から始まります。これは地域経済の救済策であると同時に、静岡市が世界のデスティネーションへと「凱旋」するための国家的一大事業であることを論証し、本白書の締めくくりといたします。</p>		
13	<p>1. 提案の趣旨 本計画の「地域の魅力発信」機能を強化するため、写真を通じた視覚的な情報発信と、地域フォトグラファーとの連携施策を提案します。</p> <p>2. 具体的な提案内容 ★「写真の街・蒲原」としての展示・公募事業 ・既存資産の活用:静岡市が過去に実施したフォトコンテストの入賞作品を館内に常設掲示し、市の東の玄関口として静岡市全体の魅力を来訪者に伝えてください。 ・蒲原限定フォトコンテストの開催:道の駅のオープンを記念し、蒲原地区に特化したフォトコンテストを実施。その結果を施設内で大々的に展示することで、地域住民の郷土愛を育み、来訪者にディーブな魅力を伝えます。</p> <p>★SNS(Instagram等)で活躍するフォトグラファーとの連携 ・デジタルアンバサダーの公募・起用:SNSで高い発信力を持つフォトグラファーを公募及び起用し、彼らの視点で切り取った蒲原の風景を定期的に館内展示やSNSで発信してください。 ・ハッシュタグキャンペーンの実施:Instagram等のSNSと連動し、来訪者が撮影した写真を館内のサインージ等でリアルタイムで紹介する仕組みを構築してください。</p> <p>★「撮りたくなる」施設づくりの監修 ・SNSで活躍するフォトグラファーの知見を活かし、施設内の「フォトスポット」の設計や、そこから見える景色を最大限に引き出す照明・外構計画を検討してください。</p> <p>3. 期待される効果 ・視覚的な魅力伝達:美しい写真を通じて、蒲原の歴史や自然を直感的に伝えることができます。 ・SNSによる情報の拡散:フォトグラファーや来訪者によるSNS投稿が、二次的な広告効果を生み、広域からの集客に寄与します。</p>	<p>実施に向けて参考にする</p>	<p>写真やSNSを活用した情報発信については、地域の魅力を効果的に伝える手法の一つであると認識しています。今後の情報発信のあり方を検討する中で参考にさせていただきます。</p>

NO.	内容	静岡市の回答	
14	静岡市の東の玄関口、蒲原に道の駅が開設されたら、とても喜ばしく思う。まず富士川橋周辺の道路は常に混雑しており、道の駅が開設されたら緩和の一助になる。そしてこの道の駅が地域交流の拠点になることを期待する。地域特産物の販売はもちろん、地震津波対策などの防災・災害対策拠点となるからである。蒲原は国道、東名高速、東海道線、新幹線が通る、まさに日本の大動脈である。道の駅の機能だけでなく、有事の際に迅速な対応を可能にするための防災・災害対策拠点になることを期待する。	その他 ご意見への回答	本計画では、地域交流の拠点としての機能とともに、防災・災害対策拠点としての役割も重視しています。関係機関と連携しながら、必要な機能の確保に努めてまいります。
15	蒲原館の様な地域に根差したお店があると地元の人も日常的に訪れる場所になりそう	実施に向けて 参考にする	地域に根差した店舗の導入については、地域住民にも親しまれる施設づくりの観点から重要であると認識しています。今後の運営内容の検討において参考にさせていただきます。
16	玄関口の文字通り、道の駅から蒲原のまちへ足を踏み入れたいような仕掛けがあると良いと思います。蒲原のまちの案内MAPやお店・施設の情報を発信するツールの設置のほか、具体的に説明やニーズに合わせてオススメの場所を提案できる人がいる窓口など。	実施に向けて 参考にする	蒲原のまちの案内マップや店舗・施設情報の発信、分かりやすい案内機能の充実については、重要な視点であると認識しています。あわせて、来訪者の関心やニーズに応じた情報提供のあり方についても、いただいたご意見を踏まえ、今後の施設計画や運営内容の検討において参考にさせていただきます。
17	すぐ隣に富士のエリアがあるので、下り線側を充実するいみはあると思う	その他 ご意見への回答	道の駅「富士」との機能分担を踏まえ、下り線側を主とした整備を検討させていただきます。今後も、周辺施設との役割分担を意識した計画としてまいります。
18	落ち着いてお茶が飲める喫茶店のような所があると良いと思います。早い着工を望みます。	実施に向けて 参考にする	落ち着いて利用できる飲食・休憩空間については、地域住民にも配慮した施設づくりの観点から重要であると認識しており、今後の検討の参考にさせていただきます。
19	地元の商品が置いてあるお店が欲しいです。名産品や農産物、クラフトビールやツナ缶など、観光客も地元民も購入できるようなラインナップが良いと思います。	実施に向けて 参考にする	地元産品を取り扱う物販機能については、本計画においても重視しています。具体的な商品構成については、今後検討させていただきます。
20	＜富士山のみえる禅坊＞心穏やかに富士山や海を眺めながらゆったりした時間を過ごせる瞑想する施設があったら日本人だけでなく外国の人も喜ぶのではないのでしょうか。どこにでもあるような道の駅ではなく、富士山や有無を十二分に利用して個性的な道の駅を希望します。煩雑な日常のストレスの多い人もたくさんいると思います。先日、淡路島に旅行した時海の見える禅坊がありました。料金が高く外国人が多いと言っていました。個性的な道の駅を希望します。お昼寝スペースでも良いと思います。	実施に向けて 参考にする	富士山の眺望を活かした特色ある施設づくりについては、貴重なご意見として受け止めています。今後の検討の参考にさせていただきます。
21	この道の駅に行きたい！という魅力となるものが必要かと思えます。この施設から見る富士山の風景は素晴らしく、キャンピングカーも泊まれる環境も整っているのも一つの魅力だと思います。ドッグランも併設されているので、利用者の幅を広げていると思います。そういった良さをもっとアピールできるのでは。	実施に向けて 参考にする	富士山の眺望やキャンピングカー利用など、立地特性を活かした魅力づくりを進めてまいります。あわせて、情報発信についても工夫してまいります。
22	道の駅蒲原の計画、進めてほしい。庵原高跡地の場所は日本一の富士山▲の眺めの良さ、キラキラ光る駿河湾、ちょっと立ち寄り場所に最適。そこに蒲原の特産物など販売出来たら町が潤う。また、災害時に利用出来ないか？周りにまだ空き地があるので何とかゲットしてヘリの発着場所に確保できないものか。計画が実践される事を望みます。	その他 ご意見への回答	道の駅整備については、地域資源を活かしながら、休憩・防災・地域振興の各機能を備えた施設となるよう進めてまいります。
23	<p>まず、駐車場メインであることは静岡市の入り口である蒲原である必要がないと思います。ましてや近くに富士の道の駅があり、今回できる道の駅蒲原の差別点がトラック目線の良さでしかないとおもいます。地域の特性を活かした新たな拠点作りと謳っていますが、このような計画では何も良さを生かせていません。蒲原は地域の人との温かさがあり、このような施設にしたら住民目線納得のいくようなことではありません。メリットとしては、トラック運転手だけです。家族連れの休憩場所となることや、せっかくだから寄ってみようというように思えません。</p> <p>静岡市から一番富士山を綺麗に大きく見れる場所であることや、富士の道の駅と差別化するために丘は撤去するべきではないと考えます。今までになるような道の駅ではない新たな道の駅にしてみても良さも見つかると思います。今回の計画のままで行くのなら、近くにある富士の道の駅で十分です。来客数も増えません。富士の道の駅がライバルですから。そっちに人は行きます。そのため、他の県から来た人や地元の人に来られるような施設である必要があります。それでないとなんとも思いません。きつとそうでないと、蒲原も静岡市もより良くなりません。</p> <p>サイクリングができるため、サイクリングの方も訪れやすいような道の駅かつ、地元の人が集まれる場所である必要があります。それらを考えた上では、駐車場メインでは嬉しくありません。立地の無駄遣いです。</p> <p>ドッグランの削除も納得いきません。現在の来客されている顧客層を見る感じ、ワンちゃん連れや家族連れ、サイクリングで来られる方が地元の小中学生がメインです。トラック運転手はそこまで多くはありません。そのため、なぜターゲットをトラック運転手にして、これまでの実績をゼロからスタートするのが理解できません。ドッグランの稼働率もとても高いです。この強みを活かすべきではないですか？</p> <p>「地域の宝を育み、人が行き交い、歴史が息づく、憩いの場所」という最高のコンセプトを掲げておきながら今回のような基本計画案はダメではないですか？あくまでも表面上の事を言っているだけで本質はトラック置き場にするのですか？静岡市の入り口です。玄関ですよ。そこをしっかりと理解して計画を立ててもらいたい。現在の施設を活かしてパワーアップするような感じでないと最低な評価になると思います。</p> <p>道の駅の導入機能の方針と整備施設の項目でも、掲げている4つの機能をこの計画案では達成できません。駐車場が多ければ地元の人には訪れませんが、災害時もわざわざ情報を提供して助けようとは思いません。地域の振興にもつながりません。何回も述べさせてもらっていますが、この計画案では地元や来客者むけの施設ではないです。トラック運転手だけです。バイパスの入り口に大型車の駐車場があると「なんだかここ」といつて終わります。危なくて入る気にもなりません。なので、このまで駐車場は入りません。現場見る感じでもここまでは必要がないと感じます。駐車場を半分減らし、その分芝生であったり、建物であったり、のんびり過ごせる、子供連れで遊べる、ペットと遊べるようなところを希望します。</p> <p>まだ思うことはたくさんありますが今回はここまでとします。ご検討のほどよろしくお願ひします。</p> <p>このままの案でいくのであれば、静岡市の方針は今後支持しません。きつと蒲原周辺の住民はそう思っています。このように扱われるのは本当に納得いきません。前向きに変更案期待しています。</p> <p>市の方々よろしくお願ひします。期待しています。市の方々の皆様。</p>	実施に向けて 参考にする	大型車の休憩施設が不足しており、民有地や河川敷に車両が停車する状況が生じていること、また蒲原地区内には利用可能な駐車場に限られていることから、地区内を周遊する際の駐車場確保が課題であると認識しております。本計画における駐車場の規模や施設構成につきましては、国道1号富士川周辺における休憩機能および防災機能の強化に加え、年間来場者数の達成に必要な駐車台数を整備すること、道の駅を起点とした蒲原地区への周遊促進を目的として、検討を進めております。一方で、地域の皆様や来訪者にとって親しみやすく、安心して滞在できる施設とすることも重要であると考えております。いただいたご意見につきましては真摯に受け止め、今後の施設配置や空間構成、さらには運営内容の検討において参考としながら、より良い施設づくりに努めてまいります。なお、基本計画にはドッグランについて記載いたしました。

NO.	内容	静岡市の回答	
24	飲食施設にドッグランを併設してもらおうと、ペット連れの集客につながるとおもう	実施に向けて参考にする	飲食機能とドッグランとの関係につきましては、利用者の安全性や運営面を踏まえながら、今後の施設計画や運営内容の検討において参考とさせていただきます。
25	現在、ほぼ毎日ドックランを利用しています 特に週末は利用者が多くとても賑わっています 地元の方だけでなく近隣や遠方の方も車でよく来ると聞いています キャンピングカーで来る方は犬同伴の方が多くドックランがあるのでここに駐車して宿泊しているとお話を聞きました いつもドックランで遊んだ後にカフェに行くと親しみやすく親切なスタッフさんとお話し出来てワンちゃん専用のおやつもあるのでリピート率がかなり高くみんなで楽しく過ごせます 富士山が綺麗に見えてとても良い環境だし地元の方や立ち寄りの方の交流の場にもなっているので道の駅になっても必ずドックランは継続させてほしいと強く願います！	実施に向けて参考にする	ドッグランの利用実態や交流の場としての役割については認識しており、基本計画にもドッグランについて記載いたしました。今後の施設計画や運営内容の検討において参考にさせていただきます。
26	せっかく海と富士山があるので建物の2階か別に展望台があるといいのでは！	実施に向けて参考にする	道の駅整備予定地は、駿河湾や富士山の眺望といった景観資源が重要な魅力の一つであると認識しています。建物の上階や展望機能の導入につきましては、施設配置や安全性、事業性等を総合的に勘案する必要があることから、いただいたご意見を踏まえ、今後の設計段階における検討の参考とさせていただきます。
27	大浴場など温浴施設の設置で来る人も住む人もホッとする道の駅へ 蒲原地区は広い海や御殿山、富士山、夜には工場夜景という景色を楽しむことができる街です。東の玄関口として、訪れた方がその景色を味わうことができる大浴場があると良いなと思いました。	実施に向けて参考にする	景観を活かした空間づくりや滞在性向上につながる施設機能については、いただいたご意見を踏まえ、今後の設計や運営内容の検討において参考にさせていただきます。
28	地元蒲原はもちろん、近隣市町村の地場産品を集めた物販店を設けてほしいです。地域の経済発展、活性化に繋がる道の駅であってほしい。 JAや漁協とも協力して特色ある、蒲原らしいぬくもりを感じさせるものが必要だと思います。また、それを周知するための宣伝は必要不可欠なので、そちらにも力をいれてほしい。	実施に向けて参考にする	蒲原地区をはじめとした地元や近隣市町村の地場産品を活用し、地域経済の活性化につながる物販機能についても重要と考えております。地元関係団体との連携や、魅力を広く伝える情報発信についても、今後の運営内容の検討において参考にさせていただきます。
29	子供の遊び場やドッグランなど、安全で子供たちが楽しめる今の空間を継続していただきたいです。 イベントなど、子どもが安心して遊べる場所をなくさないでほしいです。よろしくお願いします。	実施に向けて参考にする	子どもが安心して遊べる遊び場やイベントなど、地域の方々が親しめる空間づくりにおいて、いただいたご意見を今後の施設計画や運営内容の検討において参考にさせていただきます。
30	もし道の駅実現するならバイパスはみんなスピードを出して走っているのに特に上りのバイパスからのアクセスがしやすいようにしてほしい。 この辺にはない子供が遊べる大型遊具や、スケートボードを楽しめる場所があれば集客につながるのでは？ 名古屋に住んでいた同僚が、名古屋には外で遊べる大型遊具があってよかったといっていたので。 清水の人も、ららぽーと沼津などの東部地区にある施設へ行くことがあるのでその途中で楽しめる場所であつたらいいなと思う。 富士川楽座のようにフレッシュな野菜が売っていたらうれしいです。	実施に向けて参考にする	道の駅へのアクセスについては、国道1号バイパスの交通状況や安全性に配慮し、関係機関と協議しながら検討してまいります。また、子どもが楽しめる遊び場や地場産品の物販については、集客や滞在性向上の観点から、今後の施設計画や運営内容の検討において参考にさせていただきます。
31	基本計画案では、道の駅予定地へのアクセス道路は、国道1号バイパスの下り車線からのみとなっているが、上り車線からのアクセスも検討してほしい。	その他 ご意見への回答	下り線からは直接入ることが出来る構造としており、上り線からのアクセスは蒲原東ICをおりてのアクセスを想定しています。アクセスにつきましては、道路の構造や安全性などを踏まえ、関係機関と協議しながら、引き続き検討してまいります。
32	雨の日でも利用できるような室内ドッグランなど犬を遊ばせられる施設やペットOKの施設(カフェなど)を設置してほしい。	実施に向けて参考にする	室内ドッグランやペット同伴可能な施設につきましては、いただいたご意見を踏まえ、今後の施設計画や運営内容の検討において参考とさせていただきます。
33	事業予定地ある「吹上の浜」の立地を活用 「道の駅・蒲原」と「吹上の浜」をペDESTリアンデッキと階段等で接続、海辺で富士山を眺め浜を散策できるようにして、地域住民も楽しめる施設になることを望みます。 景勝地「吹上の浜」の良さを多くの人に知っていただきたい。	実施に向けて参考にする	本計画では、吹上の浜をはじめとする周辺の自然・景観資源を活かし、来訪者や地域住民の方が周辺地域へ足を運び、回遊できる施設づくりを目指しています。道の駅と吹上の浜とのつながりや、安全に海辺の散策や眺望を楽しめる環境づくりについては、いただいたご意見を踏まえ、今後の施設配置や動線計画、関係機関との協議において参考とさせていただきます。